

ビッド・ドシエについて（概要）



OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO2025



2017年9月

経済産業省 博覧会推進室

ビッド・ドシエとは

◆ビッド・ドシエとは

- 立候補国がB I E事務局に提出する正式な立候補申請文書。
- B I E事務局は、開催候補地への調査団訪問を経て、評価レポートを作成。

◆主な目的

- B I Eから、開催計画の実現可能性について、技術的審査を受けるための書類であり、調査ミッションの際の基礎資料となる。 ※B I E加盟各国政府にも送付される。

◆今後の主なスケジュール

2017年9月28日	ビッド・ドシエ提出期限
11月15日	BIE総会（第2回プレゼン）
2018年1～3月頃	BIE調査団来日・審査（1週間程度） ※立候補国を順次訪問。訪問順は未定。
6月	BIE総会（第3回プレゼン）
11月	BIE総会（最終プレゼン後、投票により開催地決定）

◆記載内容（B I Eより指定された14項目）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 名称、テーマ、および開催スケジュール | 8. 立地条件 |
| 2. 開催意義および期待される効果 | 9. 会場構想 |
| 3. 国内の支持 | 10. パビリオン等の配分 |
| 4. テーマとその目的 | 11. 想定される総入場者数とその客層 |
| 5. テーマの展開 | 12. 来場者と参加者のための宿泊計画 |
| 6. 組織および優遇措置等 | 13. 資金計画 |
| 7. コミュニケーション戦略 | 14. 参加費用の見込み |

1. テーマ及びコンセプト

テーマ及びコンセプト

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン “Designing Future Society for Our Lives”
サブテーマ：①多様で心身ともに健康な生き方 ②持続可能な社会・経済システム

- ・「人」(human lives) にフォーカス。
- ・個々人がポテンシャルを発揮できる生き方と、それを支える社会の在り方を議論。
- ・国連が掲げる2030年のSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献。
- ・日本は官民挙げて「Society5.0」を推進。IoT、AI等の先端技術をフル活用して課題解決。

コンセプト：未来社会の実験場 “People’s Living Lab”

- ・展示を見るだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
- ・開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。

開催地：大阪、関西の魅力

- ・ライフサイエンス分野をはじめとした最先端技術と、それを支える様々な企業（中小企業含む）の集積。
- ・歴史、伝統、豊かな文化。旺盛なチャレンジ精神。

2. 会場計画の概要

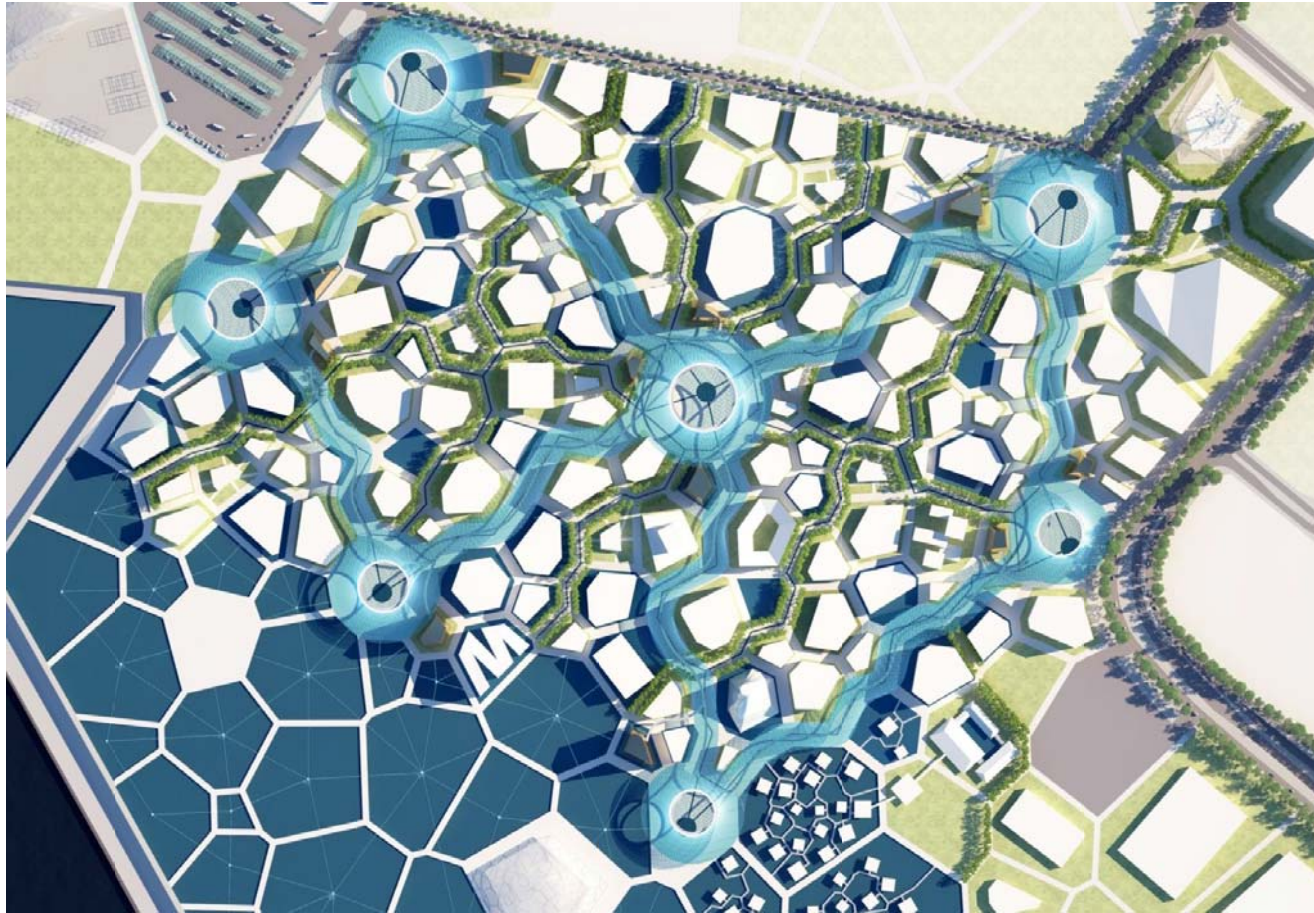
鳥瞰図

- 会場は、大阪のウォーターフロントに位置する人工島・夢洲（ゆめしま）。
- 会場面積は、155ヘクタール。（※会場中心部にパビリオン等、南側水面に水上施設等、西側緑地にアウトドア施設等をそれぞれ整備。）



非中心、分散型のパビリオン配置

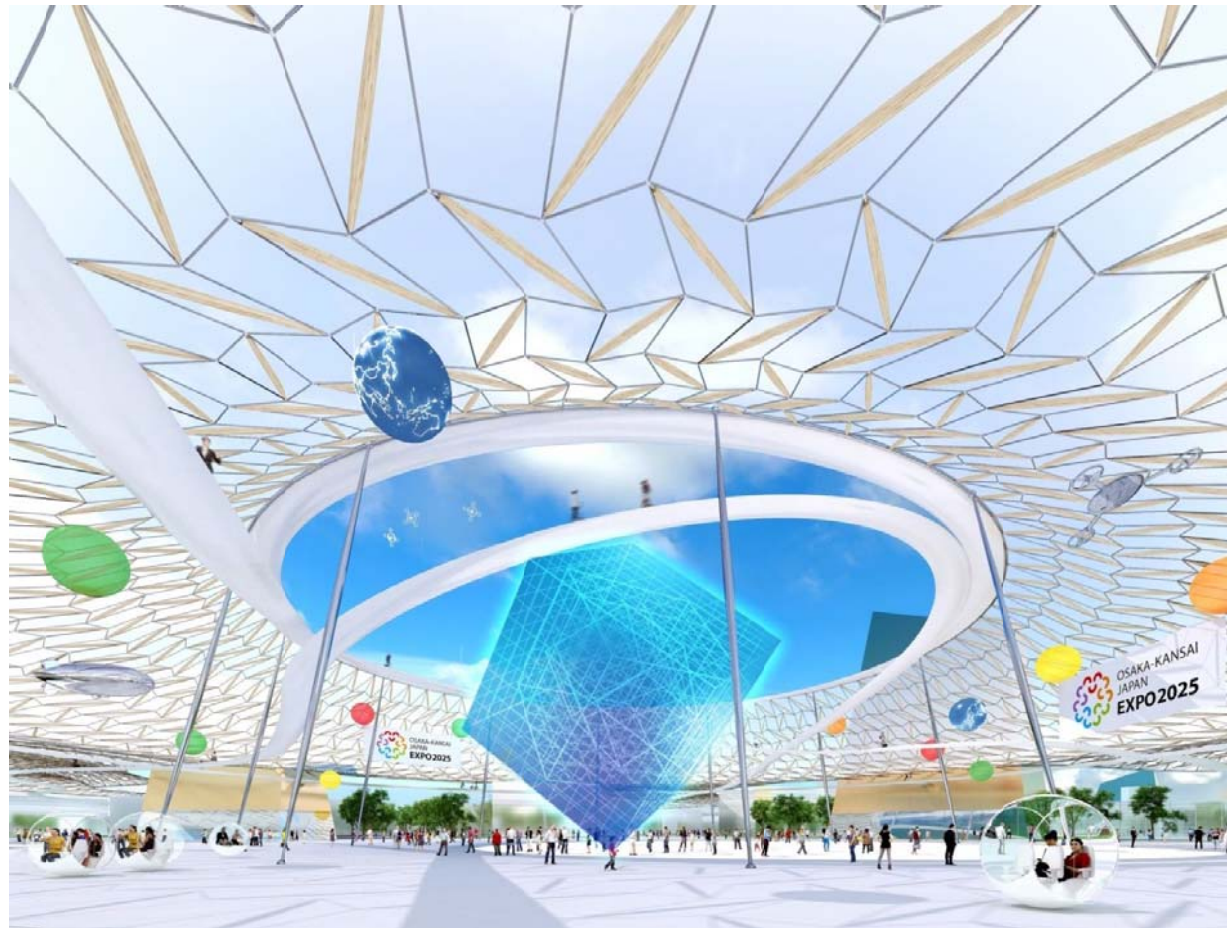
- ボロノイパターン（※）を用いた、あえて中心をつくらない分散型の会場デザイン。個と個の関係、多様性の中から生まれる調和と共創によって形成される**未来社会を表現**。
- 2つのエントランスと5つの大広場をつなぐようにメイン通りを設置し、その上には大屋根を設置。



（※）ボロノイパターン:自然界に存在する基本的で反復的な幾何学パターン。有機的なつながりと成長を象徴。

大広場：「空」（くう）

- 会場内の5カ所に「空」（くう）と呼ばれる大広場を設置。
- A R（拡張現実）・M R（複合現実）技術を活用した展示やイベントなどを行い、来場者の交流の場とする。



来場者にやさしい会場

- メイン通りの間をつなぐ通りには水路や緑の並木を整備。
- 暑さ対策も行い、来場者が快適に過ごせる空間を提供。



鳥瞰図（南西側）

- 南西側を望む夕景の会場鳥瞰図。
- 淡路島、明石海峡大橋を背景に、美しい景観が広がる。

